みつるぎの里Q&A

Q. 小規模多機能型居宅介護ってどんなサービスが受けられるの？

A. 住み慣れた家や地域で安心して暮らしていけるように通い・泊まり・訪問のサービスを本人や家族の状態や状況に応じて組み合わせながら使うことができるサービスです。

Q. 費用はどんだけかかるの？

A. 登録すれば1ヶ月の費用として介護報酬の1割と食事代や宿泊代など実費をいただきます。（下記料金イメージ参照）

Q. じゃ、毎日泊まりや通いもいいの？

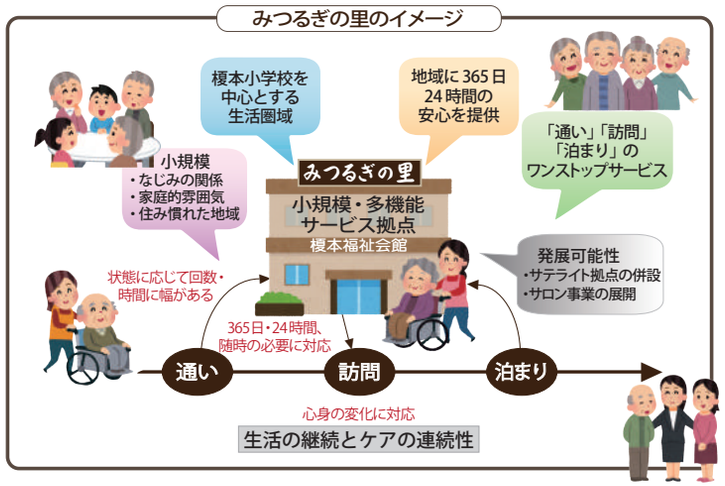
A. いいえ、視点はあくまで自立支援です。その人らしく生きがいを持って地域で暮らせるよう支援してまいります。その為に地域のボランティア・友人の方々・家族さんも共に関わり合いながら支援していきます。

利用料金イメージ《介護保険自己負担分》

要介護度	月額（円）	要介護度	月額（円）
要支援１	4,469	要支援２	7,995
要介護１	11,430	要介護２	16,325
要介護３	23,286	要介護４	25,597
要介護５	28,120		

その他の料金

宿泊費　　１泊　　3,000 円
食　費　朝 380 円　昼 550 円　夕 550 円
その他　　実費
※４週間の計算です。
※あくまでもおおよその金額です。



《みつるぎの里》お問合せ先

〒538-0042 大阪市鶴見区今津中１丁目 9-32
（榎本福祉会館内・開設準備室）

TEL : 06-6965-2123　Mobile : 070-1600-2467

☆みつるぎの里 Facebook ページ
https://www.facebook.com/mituruginosato/
☆みつるぎの里 Twitter
@mituruginosato
☆みつるぎの里ブログ
http://mituruginosato.tumblr.com/

小規模多機能型居宅介護

みつるぎの里

大切なのは
どれだけ
たくさんのことをしたか
ではなく
どれだけ
心をこめたか です。

マザーテレサの言葉より

サービスの受け手から
相互に支え合う担い手へ
『ふるさと榎本』の実現

NPO法人榎本地域活動協議会

小規模多機能型居宅介護サービスの特徴
安心した生活を支える４つのポイント

①本人本位の支援
主体は本人であり、本人の思いに基づいて柔軟性と応用力のあるサービスを提供するところに最大の特徴があります。本人の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援することを大切にし、本人の思いや希望を受け止め、それをかなえる方法を考えます。

②継続的支援
２４時間３６５日、切れ目のない支援で本人の暮らしを支えます。「お世話する」のではなく「生きることを支援する」という姿勢が、本人ができること、できる可能性があることに着目して本人の本来の能力を生かし、馴染みの職員による継続的な支援を行います。

③地域で暮らし続けることの支援
介護が必要な状態になっても、本人がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切にし、住み慣れた風景、生き交う人たちとのふれあい、軒先や縁側に訪ねてくる知人などと共に暮らせること。それが小規模多機能型居宅介護の醍醐味です。

④地域との支えあい
事業所も地域住民の一員。地域に溶け込み、地元活動への参加や多様な地域資源の活用、積み上げてきた認知症ケアの実践経験の還元など、地域と支え、支えられる関係がサービスの鍵になります。地域との支えあいが本人のより豊かで当たり前の暮らしを具現化します。

住み慣れた場所や馴染みのご近所さんその方を取り巻く様々な人たちを大切にし、地域での行事や交流会などの繋がりをサポートし、みつるぎの里が皆様の心の拠り所となるよう支援いたします。
その方の望む暮らし、出来る事を最大限に発揮し、お世話をするのではなく、楽しく地域で過ごせるよう、寄り添い支援します。〈青木ケアマネージャー〉

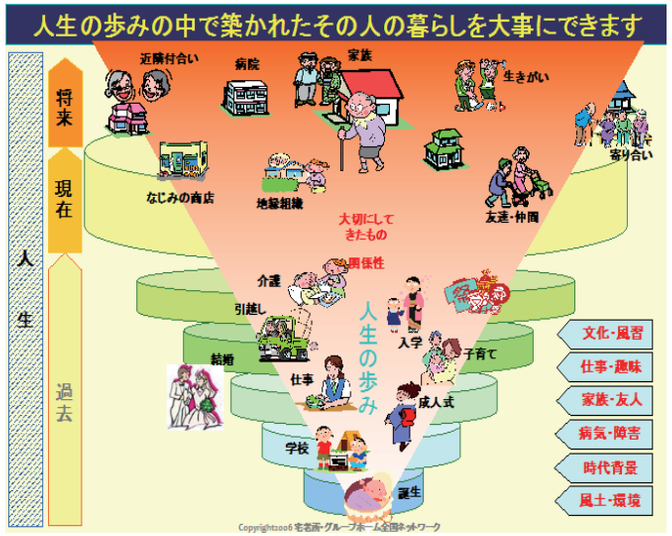
理念
生きづらさを抱えても
地域で
住まい続ける
ことへの支援

ビジョン
本人支援・家族支援
本人と家族の関係支援
生きる力を育む支援
地域で暮らし続ける支援

地域で展開する意義
（医療・福祉事業者ネットワーク構想）

２０００年から始まった介護保険も、少しづつ変化があり、「地域包括ケアシステム」が、始まろうとしています。重度の要介護の状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されることです。
住まいを中心に医療・介護など先に書かれた５つの項目が連携をはかりながら提供されることを意味します。この住まいを取り囲むのが地域なのです。
そしてこの地域が、介護事業を実施することで、介護に対する理解を持ち、近隣にある事業所と連携を図りながら、高齢者にとって住みよい街づくりをしていきたいと思います。

みつるぎの里があれば・・・



人と人とがつながり合い、
生き辛さを抱えても互いにわかり合い、
助け合える
共生社会への歩みが始まります

ＮＰＯ法人榎本地域活動協議会のこれまでの歴史、普段の取り組みを知れば知るほどこの榎本地域が秘めた可能性は大きいと思います。
世の中には高齢、障がい、不登校、貧困と様々な事情で生き辛さを抱えている人がたくさんいます。そして、原因が複合していることもあり、今までの制度の線引きでは真に問題を解決していくことはとても困難になってきています。自助、公助だけではどうにもならないのです。これからはその町にどれだけ共助があるのか？それが大切になってくるのではないだろうかと私達は考えています。
『老いても安心して暮らせるまち榎本』を目標に地域住民の皆さまに協力してもらい、私達自身、全身全霊この榎本地域に捧げたいと思っています。どんなことにでも全力で関わり、一歩一歩、地に足をつけて進んでいきたいと思っています。その先に最高の小規模多機能型居宅介護施設の実現がこの榎本地域ならできると確信しています。〈彌重管理主任〉